



©小林正典



認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

2011年6月
NO.98

Children, Our Future

子どもたちの明日

目次

東日本大震災をうけて ～今、わたしたちにできること～	2-5
働く卒園生の今 スレイ・スロスさん	6
大人気のマスコット「ぶた」ができるまで	7
カンボジアの保育園で見つけたふしぎな道具?! 七厘	8

幼い難民を考える会 (CYR) は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を生み出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。



東日本大震災をうけて

～今、わたしたちにできること～

4月2日、5月10日～12日、15日の計3回、CYRは千葉・茨城・宮城・福島の被災地や避難所の視察を行い、いまだに瓦礫が積まれたままの様子など震災の大きな爪あとを見てきました。被災地はそれぞれの問題を抱えているため、人々が日常を取り戻すのは簡単ではありません。このような状況の中、わたしたちに何ができるのか、一人ひとりが真剣に考える時がきています。



宮城県東松島市



津波の影響で閉じられた保育園
(宮城県東松島市)

幼い難民を考える会 「あおぞら保育」

CYRIは、被災した子どもたちのための「あおぞら保育」や奨学金の支援を行います。「あおぞら保育」の目的は、慣れない避難生活を送る子どもたちをストレスから解放し、安心して楽しく過ごせる居場所をつくることと、被災した地域の人たちに保育参加を呼びかけ、手当てを支払って生活支援につなげることです。遊具や教材は購入するだけでなく、ボランティアのみなさんと一緒に手づくりしています。第一弾の支援先が、宮城県の「災害子ども支援ネットワークみやぎ」が行う子どもの施設と、福島県の避難所やお寺に決まりました。



福島市の避難所。週末には炊き出し（写真左）やフラワーセラピーなどのイベントが開催されている（写真下）。



* ありがとうございました *

5月20日までに5,886,060円の募金と、保育で使うたくさんの絵本や紙芝居が寄せられました。被災した人たちの自立までの道のりを長期的に支援していきますので、今後とも引き続きよろしくお願いします。

これまでの活動経験を 活かした被災地支援を行います



← 希望の家。保育はカンボジアの人たちが行い、日本人は後方支援に努めました。



保育専門家に選ばれた教材・遊具で遊ぶ子どもたち →

カンボジア難民キャンプ (1980年～1993年)

タイとの国境地帯にできたカンボジア難民キャンプで、保育センター「希望の家」を設立。子どもの成長に合わせた教材を提供し、「心身ともに健康に育つ環境」づくりを行いました。おとなには職業訓練を支援。働くことに生きがいを見出し、生活の自立につなげました。



震災直後は、倒壊した家々や瓦礫、真っ黒い焼け野原が広がりました。



← テントやビニールシートを利用した移動保育

阪神淡路大震災 (1995年1月～3月)

復旧が進んでくると、日中の避難所には子どもたちが残ります。エネルギーを発散する運動やおやつをつくるなど、子どもが「日常」を取り戻すための移動保育をしました。



← 津波直後の町の様子



子どもたちに教材・遊具を届けました →

スマトラ島沖大地震・大津波 (2004年12月～2007年7月)

地域の情報に詳しいタイの NGO に協力して巡回保育や遊具提供を支援しました。



タイ NGO による保育施設や公立幼稚園、障害者センターでの巡回保育 →

「あおぞら保育」

セットに含まれる教材・遊具をご紹介します



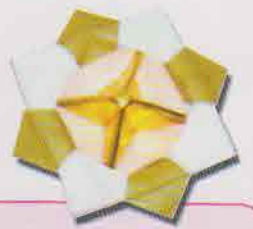
お誕生日ケーキ

誕生日は、自分が主人公になれる特別な日。生まれてきたことを喜び祝います。ろうそくの火は命の誕生のともし火を意味します。



縄跳び

シーツを編んだ縄跳び。屋内でも運動ができ、思いっきり身体を動かすことでストレスからの解放につながります。あたっても痛くないのは手づくりならではの。



コマ

折り紙3枚の組合せで、様々な色のバリエーションが生まれます。小さい子も簡単に回せて、楽しみながら手や指を使います。子ども自身で作って「自分のコマ」で遊ぶこともできます。

★ どうして「あおぞら保育」セットの遊具・教材を手づくりするの？

- 子どもたちは、手づくりのあたたかみや優しさを大人以上に敏感に感じます
- 自分でモノを作り出す「創造性」を育みます
- やわらかい遊具は、ケガの心配なく遊べます
- 買わなくても楽しい時間を過ごせることの大切さを体験します
- 「何かをしたい！」という作り手ボランティアの方々の気持ちを届けます

人形

「みんなで布チョッキン」でおなじみのお人形は、抱きしめると心が「ほっ」とします。話しかけたりお世話をしたり、「ごっこ遊び」もできます。



ペープサート

歌にあわせて手遊びをしたり、体を動かしたりします。絵があることで、小さい子どもや障がいのある子どもたちが理解しやすく、イメージがふくらみます。お母さんや保育経験のないおとなでも、すぐに使えます。



教材作りに参加したボランティアの方々の声

現在一橋大学大学院で経済学を勉強しています。被災した子どもたちのための教材作りに参加できて、大変嬉しく思っています。震災の衝撃的な光景を見て、とても胸が痛くなり、少しでも日本に貢献ができればと考えて募金活動に参加してきました。CYRでのボランティアを通じて、お母さんやお父さんを失った子どもたちが笑顔と元気を取り戻すお手伝いができれば幸いです。これからも自分ができることで応援していきたいです。

チア・ポーレンさん
(在日カンボジア留學生協会副会長)



布で人形を作りました。みんなで集まって、被災地の子どもたちのことを考えながら、物づくりをする体験ができました。1日も早く日常生活と笑顔を取り戻してくれることを願っています。

渡邊 美香さん(インテリアデザイナー)



初めて参加しました。普段やらない紙ねんどでの手作業はモチモチの感触が新鮮で楽しく作れました。受け取った子どもたちの笑顔イメージしながら作ると、何だか嬉しい気分になりました。

★ 遊具・教材はどのように決められたの？

だれが作っているの？

- 保育の専門家が話し合いを重ねて、子どもたちの心の状態に配慮された遊具が選ばれました
- 子どもたちが日常の心の状態を取り戻すまで、遊具は段階的に変えていきます
- 最初はみんなで触れ合いながら、楽しく遊んで笑顔が戻ってくるものを選びました
- 声を出したり身体を動かすことで、ストレスから解放できるものを選びました
- 手づくり遊具は、一般や企業・団体などのボランティアの方々の協力で作られています



被災地の小さい子どもたちはどうしているのだろう…。遊んでいるのかしら？と心配しています。縄跳びを編みながら、子どもたちがお誕生日会をしたり、大縄をみんなで跳ぶ姿を思い描いていました。子どもたちが、安心して過ごす時間や場所が、少しずつでもふえますように！！

勝間田 万喜さん(保育士)

自分たちが作った遊具で、子どもたちがどんな風に遊んでくれるのか楽しみです。楽しんでもらえるといいなあ♪

シア・リダ(会社員)
山田 留美(東京外国語大学学生)



働く卒園生の今

CYR がカンボジアで保育園を開いてもうすぐ 20 年。
卒園した子どもたちは、今どうしているのでしょうか？



スレイ・スロスさん (20)
バンキアン保育園卒園

高校 2 年生が終わった時に、お酒が原因で父が病気になりました。治療のために家族が借金をしたので、私も高校を中退して働き始めたんです。最初はプノンペンに新しくできた縫製工場で見つけました。家は農業をしているのですが、工場の仕事の方が体が楽だと思いましたし、他にできる仕事もありませんでした。半年後にその工場が閉鎖したので、今は家の近所の別の縫製工場で働いています。

でも、ずっとこの仕事を続けるつもりはありません。本当は警察官になりたいのですが、母が反対しているのでダメですね……。将来は、地元で小さな商売を始めたいです。調味料を売ったり、アヒルやブタを飼ったりするのもいいですね。

どんな仕事？

内容：出荷前の衣料品の検品
勤務日：月～土
労働時間：7:00～16:00
収入：\$60～\$90

嬉しいことは？

友だちがたくさんできたこと

収入の使い道は？

\$10 は自分の生活のために使って、残りは全部家族に渡している

家族構成と仕事

父：村長
母：農業
兄：視覚障がいのため就労していない
本人：縫製工場勤務
妹：縫製工場勤務



写真

(上) スポンの検品業務を担当するスレイさん

(下) この工場では、約 300 人の女性たちが働いている

大人気のマスコット 「ぶた」が

できるまで！



1
型に沿ってミシンで縫います



2
ハサミで切り抜きます



3
ボタンを詰めて鼻を作ります



4
綿をパンパンになるまで詰め
ます



5
しっぽが丸まるように跡をつけ
ます



6
背中と耳を縫いつけます



7
鼻の穴を刺繍してブタらしく！



8
できあがり♪

マスコット 人気ランキング！ (2010年度)

- 1 うさぎ 433羽
- 2 コロぞう 291頭
- 3 ぶた 252匹

カンボジアの女性たちが、ひとつひとつ手仕事で作っている動物のマスコットたち。2010年度は、このマスコットをもっと多くの方に知っていただけるように「マスコットロード」キャンペーンを行いました。3,000個の販売を目標に取り組んでいましたが、たくさんの方々にご参加いただき2,643個を達成しました。一年間ご協力いただきましてありがとうございました。

人気ランキングでは、干支の「うさぎ」、アジアの動物王の「ぞう」に惜しくも勝てませんでしたが、堂々の3位の人気を得た「ぶた」。愛情をたっぷり受けて丸々と太った「ぶた」が作られるまでの様子をお伝えします。

NEW

この秋、CYRの製品は化学染料をやめて自然染色100%に切り替えるため、マスコットもニューフェイスに変身します！新しいキャラクターも登場するかもしれません。お楽しみに！

カンボジアの保育園で見つけた ふしぎな道具？！

七厘

カンボジアの田舎には、ガスがありません。
ごはんを作るときには、
薪や炭を使って七厘で調理をします。

保育園の給食室にも七厘がふたつあります。

火を起こすときには、ちょっとしたコツが必要です。
火加減は、料理をしながら薪や炭の量を調節して行います。

経験がものをいう作業なのです。

火が小さくなりすぎたら、
お鍋のふたなどで七厘の中へ空気を送って大きくします。

火が大きくなりすぎたら、薪や炭を取りだします。

カンボジアの子どもたちは、
この作業を小さい頃から見て学びます。
だから、小学生にもなると立派に火を起こすことができるのです。



給食がつくるカンボジアの未来 「月いち募金」サポーター募集

銀行口座、郵便局、クレジットカードを使って、毎月1,000円から自動引き落としで寄付ができます。
日に換算すると、1日30円＝カンボジアの子どもたちの給食約1食分！
ぜひご協力ください。

特徴

1. 毎月、自動引き落としなので、振込みの手間が不要です
2. 毎月最低1,000円から、金額を指定できます

お申込方法

同封の月いち募金チラシの裏面（お申込書）にご記入いただき、ご返送ください



GYR写真集(2,000円)
をプレゼントします！